

与那国島のクロカジキ漁獲動向*1

鹿熊信一郎

1. 目的

本県パヤオ周辺でのクロカジキ (*Makaira mazara*) の漁獲量は、沖縄県水産試験場漁獲統計 (水試統計) では1997年に約150t (約1.3億円) で、このうち与那国で約75t (50%)、糸満で約30t (20%) 漁獲された。最近、太平洋各地でのゲームフィッシングの増加に伴い、クロカジキの資源状況に関心がもたれている。このため、与那国島における漁獲動向を調べた。

2. 材料及び方法

- (1) 水試統計から、1989年～1997年の年間漁獲量、漁獲尾数、平均体重 (内蔵、エラを除いた重量)、最大体重、月別漁獲量を求めた。
- (2) 1989年～1997年について、5kg単位で階層分けした体重別漁獲尾数を求めた。
- (3) 1982年～1997年の年間漁獲量、CPUEの推移を調べた。漁獲努力量は出漁日数×出漁人数としたが、クロカジキが対象の場合、出漁しても1尾も漁獲できない日が頻繁にある。この日数は水試統計ではわからない。このため、増田ら¹⁾ が用いた次の方法を使った。

出漁日数：クロカジキが1尾以上水揚げされた日数。

出漁人数：その年に1尾以上クロカジキを漁獲した漁業者数。

3. 結果及び考察

- (1) 表1に1989年～1997年の漁獲状況を示した。

表1 与那国島におけるクロカジキの漁獲状況

	1989	1990	1991	1992	1993	1994	1995	1996	1997
漁獲量(kg)	76,503	74,871	68,223	45,207	44,240	24,904	50,574	55,929	69,917
漁獲尾数	812	842	781	451	462	248	552	568	778
平均体重(kg)	94	89	87	100	96	100	92	98	90
最大体重(kg)	484	466	282	398	260	360	420	395	460

*1 新漁業管理制度推進情報提供事業の一環

図1に与那国、図2に糸満の月別漁獲量を示した。

与那国では2月～11月に漁獲があるが、盛期は春～夏で4月と7月に漁獲のピークがある。糸満では、与那国と比較して漁が遅く始まり、早く終わる傾向がある。

(2) 図3に1997年の体重階層別漁獲尾数を示した。50kg付近と100～110kg付近にモードがある。このモードは、1989年～1991年にもみられたが、1992年～1994年は不明瞭となり、1995年、1996年は50kg付近のものだけみられた。増田ら¹⁾ の調査では、50kg付近のクロカジキは雄が多く、100kg付近は雌が多かった。また、雌は春 (4月の漁獲ピーク) に多く、雄は夏 (7月の漁獲ピーク) に多かった。

(3) 図4に漁獲量とCPUEの推移を示した。1982年～1986年のCPUEは増田ら¹⁾ の図から読みとった数値を使った。CPUEは1994年まで減少傾向にあったが、その後は増加傾向に転じた。原因は不明だが、太平洋のクロカジキは、単一系群で大きな回遊をおこなうと想定されており (魚崎²⁾)、資源の状況を検討するには太平洋全域の漁獲動向 (特に延縄) も調べる必要がある。

文 献

- 1) 増田育司・藤川広志・小沢貴和：与那国島におけるクロカジキの漁獲量解析. 水産海洋研究, 53-3, 255-262 (1989) .
- 2) 魚崎浩司：太平洋のクロカジキ資源について. 月刊海洋. 通巻296号, Vol.27, No.2, 1995, 101-105.

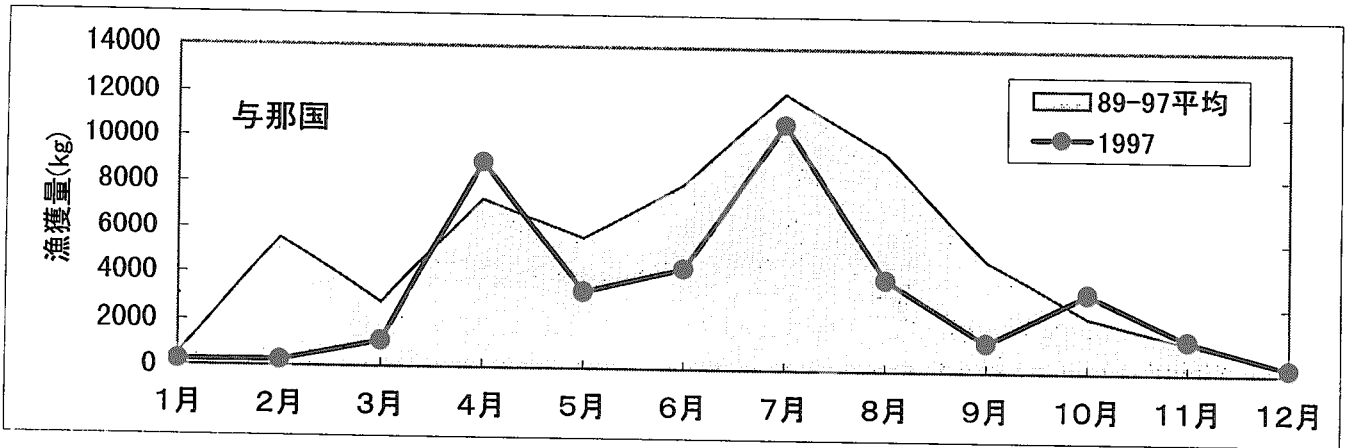


図1 与那国におけるクロカジキ月別漁獲量

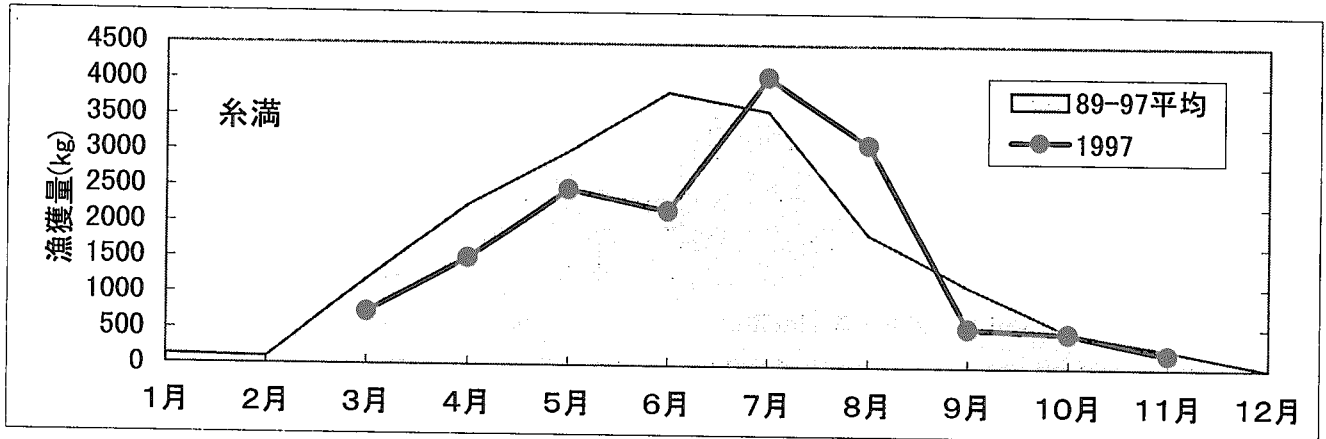


図2 糸満におけるクロカジキ月別漁獲量

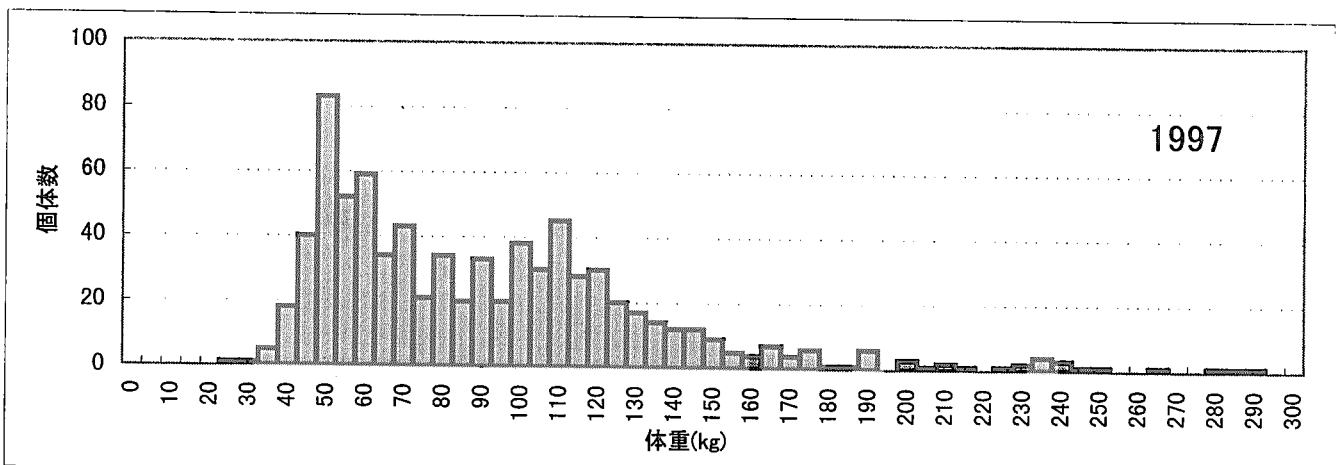


図3 与那国におけるクロカジキの体重階層別漁獲尾数

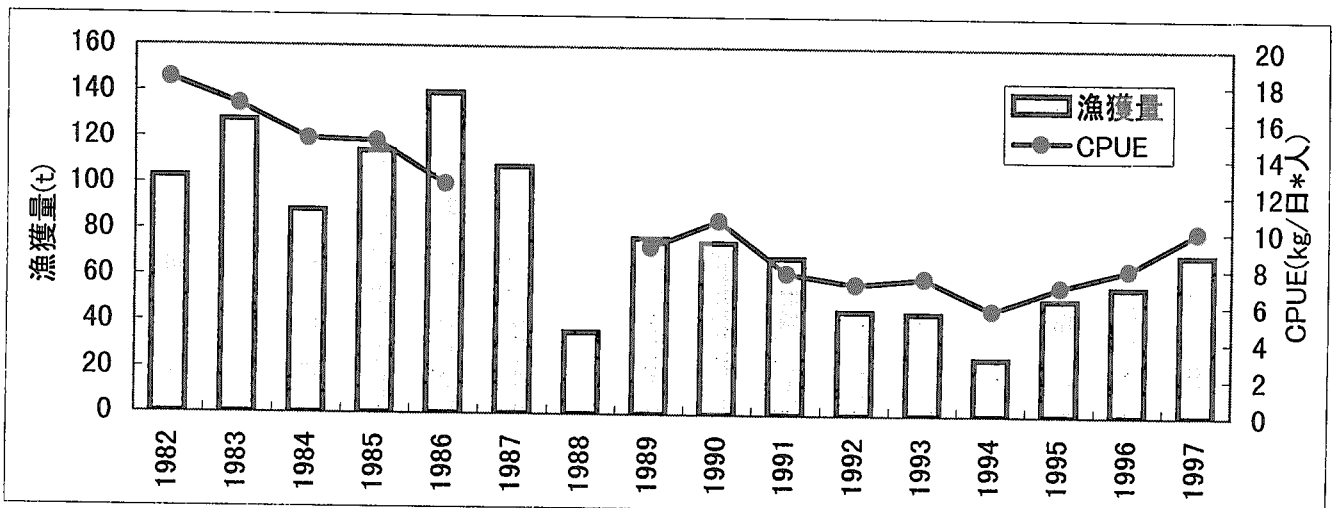


図4 与那国におけるクロカジキの漁獲量とCPUEの推移